

## 令和3年度第2回役員会会議報告

日 時 : 令和4年3月2日(水) 14時00分～16時10分

開催方法 : オンライン(Zoom)を活用しての開催

出席者 : 20名

○役員(14名)

大平会長、宮田副会長、早川副会長、吹屋理事、柳楽理事、今部理事、山田理事、石尾理事、定兼理事、福嶋理事、栗原監事

○随員(5名)

山口県文書館2名、鳥取県立公文書館1名、神奈川県立公文書館1名、徳島県立文書館1名

○会長事務局(4名)

会議の冒頭で2月21日に逝去された全史料協前参与の故小松芳郎氏を悼み、出席者全員で黙とうをささげた。

### 1. 報告

(1) 出席者および今期役員名簿

会長事務局より報告確認

(2) 会員の現況及び令和3年度会費納入状況報告

会長事務局より説明。

- ・令和4年1月31日時点で、機関会員138機関、個人会員258名、合計396会員である。
- ・前年度末の会員数と比較して、機関会員が1機関減(入会0機関、退会1機関(常総市))、個人会員が4名増(入会7名、退会3名)で全体では3会員の増である。
- ・令和4年1月31日時点の会費納入状況は、納入件数364、未納件数33である。昨年度の同期間と比較して未納件数は約半分に減少している。

(3) 各事務局・委員会報告

各事務局および委員会から令和3年度の活動を報告。特記事項は以下のとおり。

①会長事務局

- ・総会は6月8日にオンラインで開催。参加者数71名。
- ・役員会は、第1回は5月18日、第2回は本日(3月2日)オンラインで開催。
- ・会員に係る事務は事務支局を通じて入退会管理、会費名簿管理、会費徴収事務を実施。
- ・令和4年1月22日にアーカイブズ関係機関協議会に出席した。

②副会長事務局

- ・国際会議、セミナー等の会員への広報として EASTICA の会議を案内。
- ・国際団体への負担金送付準備中。

### ③大会・研修委員会

- ・第 47 回全国（高知）大会の企画・準備・開催を行った。今大会は、令和 3 年 11 月 18 日（木）～19 日（金）に初めてオンラインで開催。参加者数は 人。アンケート結果からは研修会・大会テーマ研究会ともに「たいへん参考になった」が過半数など、オンライン開催についてもおおむね賛同を得られた。

### ④調査・研究委員会

- ・令和 4 年 2 月 8 日公文書館機能普及セミナー in 岡山を開催。岡山で対面開催の予定であったが新型コロナウイルス感染拡大のため直前にオンライン開催に切り替えた。遠隔地や感染拡大地域からも含めて参加者 75 名。参加者アンケート結果では好評を得た。
  - ・調査・研究事業 中国地方基礎自治体の公文書保存に関するアンケート調査を実施しており、中国地方 5 県、107 市町村 214 機関にアンケートを送付した。
  - ・大規模災害発生時における情報窓口・連絡調整を行った。
    - 5 月 1 日 宮城県沖地震（震度 5 弱 被害なし:5 月 7 日確認）
    - 7 月 1 日 静岡豪雨（被害なし:7 月 4 日確認）
    - 10 月 6 日 青森県地震（震度 5 強 被害なし:10 月 8 日確認）
    - 10 月 7 日 千葉県北西部地震（震度 5 強 被害なし:10 月 9 日確認）
    - 1 月 22 日 日向灘地震（震度 5 強 被害なし:1 月 24 日確認）
- なお、地震等発生時の情報収集の基準の見直しについて引き続き検討中

### ⑤広報・広聴委員会

- ・会誌『記録と史料』第 32 号は、令和 4 年 3 月発行予定。『会報』第 110 号を令和 3 年 9 月に発行、第 111 号（大会特集号）は令和 4 年 3 月発行予定

## （4）地域担当理事報告

### ①関東部会

- ・総会と役員会を令和 3 年 6 月にオンラインで開催。運営委員会（9 月、2 月）もオンライン開催。定例研究会 5 回のうち 4 回はオンラインで開催。1 回は、12 月の感染が収まっていた時期に川崎市市民ミュージアムで対面開催を実施でき、実際に被害を受けた施設や資料修復の様子を見学できたことでオンラインではできないと好評を得た。
- ・会報『アーキビスト』第 96 号を令和 3 年 9 月に発行、第 97 号は令和 4 年 3 月に発行予定。
- ・会員数（令和 4 年 2 月 10 日現在）機関会員 50 機関 個人会員 105 名 計 155

### ②近畿部会

- ・第 1 回役員会は 5 月 26 日にオンライン開催。
- ・総会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、6 月 6 日にオンライン開催した。
- ・運営委員会は、第 1 回を令和 3 年 4 月 9 日にオンライン開催。第 2 回は令和 4 年 3 月にオンライン開催予定。
- ・例会は 6 回開催予定で企画したが 3 回はコロナウイルス感染拡大により中止した。

- ・ 目録規則、デジタルアーカイブ研修を4回シリーズで実施。
- ・ 市町村を中心に各自治体の公文書管理条例を読み検討する公文書管理条例勉強会を開始した。
- ・ 会報『Network-D』をデジタル版（全史料協ホームページ内）で発行
- ・ 月報「Monthly News」を発行（総会・例会等の案内）
- ・ 会員数（令和4年1月31日現在）機関会員16機関（±0）、個人会員73名（+15）計89（+15）
- ・ 通信会員9名（メールで催し物等の連絡を行う、会費として1,000円を徴収）

(5) 令和3年度決算見込額について

会長事務局より説明。

①大会・研修委員会

- ・ 事業費の委託費は、オンライン開催で司会班が現地に入って大会での機材のレンタル料が増えた。一方で会議費の旅費はオンラインではほぼ開催したので抑えられた。

②調査・研究委員会

- ・ 会議費はオンラインやメール開催により全額未執行。事業費は、公文書館機能普及セミナーが現地開催から急遽オンライン開催になり、zoomの運営補助、動画編集業務を委託した。また現地開催予定だった会場のキャンセル料が発生した。

③広報・広聴委員会

- ・ 委員会をオンライン開催したことにより旅費が余った。通信運搬費でホームページの更新に必要なインターネット通信料が県の業務用PCを使うことで不要になった。

④副会長事務局

- ・ EASTICAの会費支払の準備をしているがなかなか海外送金をしてくれる銀行が見つからずまだ執行していない。

⑤会長事務局

- ・ 会費については1月末段階で若干の未納がある。総会及び役員会をオンライン開催としたので支出が減となっている。旅費も大会、セミナーがオンライン開催になり支出なし。PC購入、アルバイト雇用等もなくなった。
- ・ 会全体として、繰り出し金は予定どおり100万円を特別会計に回している。

(質疑・意見等)

- ・ 大会アンケートについて、全史料協全体に対しても苦言を呈するものはなかったか。あれば共有化できたらいいと思う。  
→特にない。
- ・ 近畿部会の会員増の理由やコツは何か。  
→例会以外にも近畿部会副会長事務局の尼崎市の働きかけでさまざまな研修会等が増えてきていることも影響しているのではないか。
- ・ 近畿部会で「聖教」をとりあげたことなども関心を集めたか。  
→例会企画は運営委員会で行っているが、ネット環境ではあるていど反響があったようだ。  
→関東部会では研究会のオンライン開催によるメリットが参加者には多いようだ。

## 2. 協 議

### (1) 令和4年度事業計画案及び予算案について

#### ①令和4年度事業計画案

各事務局・委員会から令和4年度事業計画及び予算案についての説明がされた。

##### ○会長事務局

- ・総会を令和4年6月に東京都で開催する予定。役員会を2回（令和4年5月、令和5年2月）開催する予定。会員に係わる業務は事務支局に委託する。

##### ○副会長事務局

- ・国際会議、セミナー等の広報
- ・国際団体への負担金、会費等の納入を行う。

##### ○大会・研修委員会

- ・委員会は4回予定
- ・全国大会は、10月27・28日に滋賀県を会場にオンライン開催予定

##### ○調査・研究委員会

- ・委員会は年4回予定
- ・公文書館機能普及セミナーを開催予定
- ・実施中のアンケート調査の取りまとめと必要に応じて現地調査を実施する。
- ・大規模災害発生時の情報窓口、後援申請承認を行う。

##### ○広報・広聴委員会

- ・委員会開催、会誌・会報の発行、ホームページの維持管理を行う。

#### ②令和4年度予算案

##### ○大会・研修委員会

- ・大会をオンライン開催とするため委託費を計上。大会参加費徴収等のオンライン開催に伴う事務補助を含めたい。
- ・オンライン開催に伴う大会冊子の発行の是非について、委員会で議論に挙げられている。

##### ○調査・研究委員会

- ・前年度並みの予算組みをしている。
- ・例年会場費が不足気味なので増加している。

##### ○広報・広聴委員会

- ・事業費でホームページ更新のためのインターネット通信料が不要になり減額している。

##### ○副会長事務局

- ・旅費はオンライン開催を想定せずに計上している。

##### ○会長事務局

- ・会費は前年度同様に計上
- ・総会、役員会をオンライン開催にすることで旅費を減額
- ・会全体として繰り出し金を前年同様に100万円を特別会計に計上している。
- ・コロナ禍の状況で繰越金の額が膨らんでおり結果として収入額が支出に対して通常の年より多くなっている分を予備費としているが、この状況は一時的なものと考えている。

(2) 大会・総会の開催方法について

①大会 大会・研修委員会からの報告の通り

②総会

日時 令和4年6月 開催方法 オンライン開催 記念講演 オンライン開催

交流行事 開催せず

開催時期について

- ・公文書館長会議は6月9日(木)、10日(金)、ハイブリッド形式で開催の予定
- ・本会の総会をオンラインで開催するとすればこの前後の週とすべきか。
- ・記念講演の内容と講演者について福田元首相への感謝状贈呈式をどのように組み込むかを含めて検討したい。

(質疑・意見等)

- ・公文書館機能普及セミナーの開催予定地はどうなっているか。  
→委員会で島根でという案は出ているがまだ決定していない。
- ・三年連続して中国地方で開催となると普及していない地域に広げていくという趣旨を考えていかなものか。  
→委員会で検討していく。
- ・大会テーマはどのあたりまで決めているのか。  
→今年度は高知県の特色を出すということを意識して高知県の地域資料が主なテーマになったが、次年度は公文書について滋賀県でどのような取り組みをしているかというところをテーマにしようかと検討している。
- ・大会、総会ともにオンライン開催と早々に決めているがいかなものか。  
→事務局を担う立場では、両にらみで準備を進めていくことは事務量が増加して負担が増す、確実な方法で開催準備をすることが妥当と考える。大会開催地の滋賀県もオンライン開催を強く希望している。将来的にもハイブリッド開催を希望する意見もあるが、事務局や開催地の立場からはきついと考える。また大会・研修委員会だけでなく全史料協全体で開催のあり方については考えるべきと思う。(大会・研修委員会)  
→総会については6月開催を前提とする上で、コロナ禍の状況で先が見えないが、最近の感染状況を踏まえてオンライン開催とすることが妥当と考える。(会長事務局)
- ・対面方式かオンラインかは状況次第としかいいようがない。ハイブリッド形式はメリットも大きいので今後検討していくこともありかと思う。その際に経費を外注に回していくということも次に向けてということで考えていいと思う。

\*協議事項(1) 令和4年度事業計画案及び予算案について及び(2)大会・総会の開催方法については、異議なく承認された。

(3) 表彰規程の運用について

【令和3年度の表彰】

- ①功労賞 高知大会がオンライン開催となり、一同が会した表彰式ができないことから、令和3年度の功労賞表彰は見送りとなった。令和4年度は役員会で対象者が挙げられれば対応したい。

②奨励賞 令和3年度は、総会資料発送時に奨励賞推薦に関する案内を同封して推薦を募ったが、期日までに推薦はなかった。令和4年度も同様に募集する。

③感謝状 令和3年度総会において、公文書管理法施行10年の節目に当たることから、同法の制定に大きな役割を果たした福田康夫元首相に感謝状を贈呈すべきとの意見があり、その後役員会持ち回りの結果、贈呈することを決定。その時期、場所等の調整は会長事務局に一任された。会長事務局では、令和4年度総会が対面式で開催され、その場で贈呈することを前提に、福田氏宛に感謝状授与の打診を行っている。令和4年度も役員会で対象者が挙げられれば対応したい。

(質疑・意見等)

・奨励賞の対象期間はいつになるか。

→規定通り前年度、今年度の業績が対象となる。

\*協議事項(3)表彰規定の運用については、異議なく承認された。

(4)委員会設置要綱および大会・研修委員会運営要領の改訂

設置要綱第3条別表(1)大会・研修委員会の所掌事務及び運営要領第2条を改訂する。

(質疑・意見等)なし

\*協議事項(4)委員会設置要綱および大会・研修委員会運営要領の改訂は、異議なく承認された。

### 3.その他

(1)アーカイブズ関連機関協議会について

・令和4年1月21日に開催された同協議会に会長及び会長事務局が出席した。

・国立公文書館から認証アーキビスト更新に係る研修等に関する情報提供についての協力依頼があった。

(質疑・意見等)

・大会の研修、研究会、調査・研究委員会セミナー、各部会の研究会等、全史料協のすべての研修・研究会をノミネートしておけばよいのではないか。

・更新に係るかどうかは国立公文書館が判断するのだし、認められれば会員にとってメリットになるのだから、それでよいと思う。

→会長事務局で国立公文書館への回答案をまとめてあらためて役員会に諮ることにする。

(2)その他

1 本会への貢献者の訃報に関する取扱いについて

・現状では、特に定めはないが、会員に周知すべきと思われる訃報については、ホームページや会報の会員動向への掲載、会誌への追悼文の執筆申し出による掲載という取り扱いを今後も行っていきたい。(広報・広聴委員会)

(質疑・意見等)

・慣例でかまわないが、一応内々の申し合わせ事項のようにペーパーにしておいて同じような扱いにすることにしておいた方がよい。

→そのように検討していく。

## その他の意見

- ・次期役員の検討はどうなっているか。
  - 公文書館・アーカイブズ機関への注目が増え館内業務量の増加、新型コロナウイルス感染への対応に追われる中で、全史料協の活動に対して新たな負担が増えることを懸念されるところが多いかと思う。また対面の機会で話をする機会が失われており調整が進まない。事務作業の効率化を図って受け入れられる体制をつくっていかないと新たなところに引き継いでいくことはできないと考えている。候補に呼びかけもしているがなかなか決まらない。役員皆さんのお力を貸してほしい。
- ・関東部会においても役員の引き受け手、事務局の負担軽減も問題化されてワーキンググループを作り検討を進めている。機関会員には共通した困難な状況があるかと思う。
- ・次期役員が決まらなければ全史料協は解散するという腹をくくった覚悟で役員会で検討していくことが必要か。